

監督	木俣録八	コーチ	本橋・岩田・富澤・田中・川端
主将	河合亮一	副務	金子哲也
副将	頼政秀幸		藤原真
主務会計	窪田圭司	部報担当	近藤/藤原

弓道

第470号

2016. 7. 18
NTT東日本東京弓道部

東京都実業団弓道連盟・東京都学生弓道連盟 第56回親睦弓道大会

実業団が平成元年以来8回目の勝利 部員5名勝利に貢献

さる7月18日(日)世田谷区桜上水の日本大学弓道場において、30度の猛暑の中標記大会が開催された。参加は、都実業団9事業所33名+個人10名=43名(男子33名:女子10名)昨年より10名参加増となった。都学連は19大学43名(男子30名:女子13名)と昨年より7大学、21名参加者減であったが、総計86名が厚い中参集して開会された。(実業団参加者は参加費納付で大会経費を賄い、学生は参加費無料)。NTT東日本東京弓道部からは、昨年近藤のみの参加であったが、今回は後輩学生3連覇阻止貢献すべく、部員久々8名が参加した。

競技方法は、実業団用の3色的得点制各自20射で、各団体上位20名の総得点で勝敗を決めた。個人表彰は、各団体最高得点者、また総合で男女上位(最高得点者除く)各5名に敢闘賞、的心的中者にはゴールド賞が各部先着10名に贈られた。賞品獲得できなかった参加者全員には、恒例により奨励賞が贈られた。

競技は3人4射場と狭い間合いであったが、昼食後の実業団3回目の1番立13時半頃いきなり震度3の地震があり、会に入っていた選手など戸惑いを見せる選手もあったが15時半無事終了した。

勝負は、昼食前の2回目終了時点で都学連が627点、実業団509点と都学連が18点リードし、最高得点者は実業団日本銀行の建井選手38点7中、学生は日体大の久松選手42点7中で、共に学生がリードし、後半何処まで実業団が詰められるかに期待をかけた。

実業団 ベスト20(17点以上)までに我が部員は、34点宮川、31点木俣、27点近藤、26点杉山、19点河合の5人が健闘している。ラス前4回目終了時点で都学連が983点(39点以上)、実業団968点(34点以上)と都学連が15点リードと僅差に縮む。最高得点者は実業団世田信金の中瀬選手72点13中、学生は法政大の浅瀬石選手81点15中で、共に学生がリードし、15点差はちょっと踏ん張ればなんとかなる点数で、最終回都学連の3連覇阻止に向けて実業団分とに期待をかけた。

この回までの実業団 ベスト20までに我が部員は、57点宮川と木俣、55点近藤、53点河合に44点杉山の5人が継続健闘している。最終回、上位20名順位が入れ替わったが、都学連238点、総計得点1、218点に対し、実業団は300点を挙げ、総計得点1、268点(開差65点)と逆転勝利を納めた。

部員の成績は、前半に杉山、木俣、宮川がゴールド賞を早々獲得し幸先良く発進し、終盤までベスト20に5名が健闘する活躍で貢献。また、松本18位、荒川20位の弓友女子もベスト20に貢献する活躍でした。特に荒川女史は昨年右手負傷したが、何とか弓が引かれるまでに快復したので、久々の射会にも関わらず貢献された。

総合男女上位5名(最的的中賞除く)に贈られる敢闘賞には、宮川77点、木俣72点で獲得した。他実業団上位6位の成績には63点で河合が、65点を挙げた近藤が10位、52点の杉山は15位の成績で、ベスト20に5名が貢献。

結果の詳細は以下のとおりです。

	上位20名の総得点	勝敗	平成の勝利回数
東京都実業団	1,268点	勝利	8
東京都学生弓連	1,218点		20

最高得点賞	得点	中	選手名	所属
東京都実業団	85点	16	中瀬 雄介	世田谷信用金庫
東京都学生弓連	104点	18	浅瀬石 奨	法政大学

敢闘賞	男子5名	選手名	所属	得点	中
		藤谷 毅	東芝	83点	16
		広川 大地	帝京大学	79点	15
		宮川 一彦	NTT東日本東京	77点	16
		建井 秀史	日本銀行	75点	16
		木俣 録八	NTT東日本東京	72点	13

女子5名	選手名	所属	得点	中
	黒崎 実月	成城大学	71点	15
	岡本 亜優	日本体育大学	64点	15
	中橋 信子	総務省	63点	11
	田所 美雪	帝京大学	51点	10
	森本 弥子	明治学院大学	46点	10

部員成績 ゴールド賞(実業団・学連各先着10名) 獲得部員:杉山、木俣、宮川の3名

部員名	1回目			点			2回目			点			3回目			点			4回目			点			5回目			点			総点	実順	中
板井	3	0	0	0	3	0	3	0	3	0	3	6	9	0	0	0	0	0	9	3	0	0	3	6	15	0	0	0	0	0	15	34	4
井口	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	3	0	0	0	0	0	3	5	0	3	0	8	11	0	0	0	5	5	16	33	3	
中嶋	0	0	5	0	5	0	5	5	0	10	15	0	0	0	0	0	15	0	10	5	0	15	30	0	0	7	0	7	37	24	6		
杉山	0	10	0	0	10	3	3	7	3	16	26	0	5	5	0	10	36	3	5	0	0	8	44	5	0	0	3	8	52	15	11		
近藤	3	5	0	7	15	0	5	7	0	12	27	0	5	0	5	10	37	5	3	5	5	18	55	5	5	0	0	10	65	10	13		
宮川	3	0	3	5	11	3	5	10	5	23	34	0	0	5	0	5	39	7	3	5	3	18	57	5	0	10	5	20	77	3	16		
河合	3	5	0	0	8	3	3	5	0	11	19	5	0	3	7	15	34	3	10	3	3	19	53	0	5	5	10	20	73	6	15		
木俣	0	10	10	3	23	3	5	0	0	8	31	5	0	0	5	10	41	3	3	10	0	16	57	7	5	5	0	17	74	5	13		
松本	3	0	3	3	9	3	0	3	0	6	15	0	3	0	7	10	25	5	3	0	0	8	33	0	5	7	0	12	45	18	11		
荒川	0	0	5	0	5	3	5	0	3	11	16	0	3	5	3	11	27	0	3	5	5	13	40	0	0	0	3	3	43	20	11		

第1回部独自研修会 H28. 7. 9(土) 13:00-17:00 講師:主任・富澤コーチ(教士)・副・川端コーチ(教士) 受講部員8名

◇射法・射技と的中率の向上を目指して

- 中る(強い)チームは体配も整っている
- ⇒ 体配を疎かにすると、自ずと的中も下がる
- ⇒ いいかげんな体配では、まともな射はできない
- ⇒ 射法射技と体配の一体化(車の両輪)

富澤コーチから、右記の指導方針と修練目標の解説があり、前半はそれを中心にした指導を受ける。

後半は、2コーチが個別に弓道教本に基ずく射法射技の実践的指導をじっくり行った。

我が弓道部は、従来から中塚範士を顧問にお迎えし、年間3回程度射法射技のご指導を戴いて、部員の技術向上を図っております。

最近新入社員の入部が増え、若手の技術向上を目指し、3年前から教士部員をコーチに配し、中塚範士の指導課題補強の目標で、年3・4回コーチ陣による部独自の研修会を開催し、育成強化を図ることとした。

我がコーチ陣は岩田教士七段をはじめ、教士六段の富澤・田中・本橋・川端の4コーチで、いずれも地元弓連の審査員及び指導員を務めており、全弓連の指導方針を熟知した指導を的確に行える立場にあり、更には顧問である中塚範士八段は、全弓連の主任講師や中央審査委員長を務められ日本の弓道界の重鎮であります。

このような優秀なコーチ陣の研修会ですから、部員万障繰り合わせて出席してください。また錬士級の部員も後輩指導への指導法の勉強にもなりますからふるって参加願います。

今回は、全弓連月刊「弓道」5月号掲載の主任講師研修会指導方針を中心に研修を行った。

- ～弓道教本及び副読本に基づいた基本の徹底～
- * 指導者の心得
- 1. 指導者として自ら至誠と礼節を体現し真善美を目指すこと。
- 2. 指導者としての影響力を自覚し、地震の言動の理論性について常に注意を払うこと。
- 3. 指導鈍っては、自らが実践躬行すること。
- 4. 指導に当たっては、弓道教本及び副読本に基づき全国的に統一された指導を行うこと。

* 指導者の心得指導の項目

- 正しい歩き方の指導
 - (1)射場内では、なるべく足の裏が見えないように、腰を軸にして歩く。
右に方向(直角・斜めに)を変える場合は左足の踵から右足が出る。
左に方向(直角・斜めに)を変える場合は右足の踵から左足が出る。
 - (2)跪坐及び開き足の指導
 - (3)胴造りの際、弓の本はずは左ひざ頭におく。
 - (4)正しい「ねらい」の確認
 - (5)正しい「矢束を引き納め」の確認
 - (6)離れで弓の握りが落ちる(下がる)のを少なくする。
- 矢羽の取り扱いと矢羽の使用に関する準則の徹底を図る。
- あらゆる暴力やハラスメントの根絶を図る。
- 弓礼・弓法問答集の改定について周知を図る。
- 弓道競技規則の改定について周知を図る。
- 審査規程の改定について周知を図る。
- アンチドーピングについて